天理教 江南支部だより

発行先　江南支部
発行日　立教186年９月1日
発行責任者　福西　努
発行住所　甲賀町上野461番地9
９月号　NO278

教祖百四十年祭

～笑顔満開の夏～ 閉幕

11日間で11万3千人帰参
立教186年「こどもおぢばがえり」

教会本部主催の立教186年「こどもおぢばがえり」が、4年ぶりに開催された。本年は、7月27日から8月6日までの11日間で11万3889人の帰参。4年ぶりの開催となり、規模は例年の三分の一程に縮小されたが、各会場とも子供たちの熱気と満面の笑顔にあふれた。

滋賀教区は、京都教区と合同で「子ども横丁」を開催、昔懐かしいゲームに大人も子供も共に楽しい時間を過ごした。

準備から片付けまでひのきしんの汗を流して頂いたみなさん御苦労さまでした。

朝の信仰読本

中山慶純著

教祖はすでに教えてくださっている

先日、本部神殿で知人とばったり出会いました。その人は、あいさつもそこそこに、「どこかでお願いづとめをしていませんか？」と尋ねるのです。「なんで、そんなこと聞くんや？」と問い返すと、「人のために祈ったり人に親切にしたりすると、自分の体を元気にしてくださると聞いたので、お願いづとめを勤めたいと思いまして」と。私はすかさず「『人たすけたらわがみたすかる』の教え通り、それは当然のことやで」と返しました。すると、「それが最近、科学的に証明されたんですよ。お祈りをすると、脳から『オキシトシン』というホルモンが分泌されて、体にとても良い影響を与えるらしいんです」と言うのです。「科学的に証明」と聞いて、私も少し調べてみました。

祈りには〝愛情ホルモン〟と呼ばれるオキシトシンの分泌を増やし、脳を活性化させ、記憶力もアップさせる効果があるそうです。また、体の免疫力が高まり、心のストレスも少なくなって、毎日を生き生きと過ごすことができる、ということも分かりました。なるほど、知人が言っていたことは確かなようです。

しかし教祖は、「人たすけたらわがみたすかる」と、すでにお教えくださっています。にもかかわらず、科学者の研究発表に飛びついて、教えは二の次ということでは、教祖に申し訳ないですし、信仰者としての姿勢も問われかねません。

人間は、人のために何かをして喜んでもらえると、こちらもうれしくなり、もっとさせていただこうという気になります。また、その喜びによって体も元気になります。

自分が何かをしてもらったときも同じです。素直に「ありがとう」と喜ぶと、お互いの間にパーッと喜びが広がります。そのように親神様がつくってくださったのです。

「おふでさき」に、

せかいぢういちれつわみなきよたいや
たにんとゆうわさらにないぞや
（十三　43）

とあるように、私たち人間はみな兄弟姉妹で、親神様から見たら可愛い子供です。親神様は、子供同士が互いにたすけ合うことを何よりもお喜びくださり、自由自在のお働きをもってお導きくださいます。

人さまのために心を使い、行動する。それこそが、自分自身もたすけていただける、ただ一つの道なのです

みんなの教理勉強

だめの教えって素晴らしい

飯田照明

だめ（究極）の教えの何とありがたいことか！

はじめて神中心、人間中心の二つ一つの教えを説かれた

セム系宗教の神は、ユダヤ、キリスト教のヤハウェにせよ、イスラームのアッラーにせよ、あまりにも圧倒的で偉大（いだい）な存在であり、それとくらべると

人間はあまりにも卑小なものとなる。旧約聖書の中でアブラハムが神ヤハウェに対し、「私たちは塵、灰のようなものですが」と言った言葉に象徴されるように、偉大な神に対し、人間は実にとるに足りないものである。人間は神にくらべ、あまりにも軽く、弱小で、惨めなものと見られる傾向があった。人間の価値も、尊厳もついつい蔑ろにされることになった。

それに反発したのが、ルネッサンス以後のヨーロッパの人文主義者たちである。人間の理性を重視し、ついには科学の進歩に目がくらみ、人間の力を過信し、神をないがしろにして、人間中心主義や人間万能主義思想を生んだ。両方とも、極端な考えである。

元カトリックの神父だったある研究者はお道を学び、お道の教えはセム系宗教の神中心でもなく、またそれと対立する人間中心主義でもなく、その両方を兼ね備えているという。

親神さまはセム系宗教の神のように偉大ではあるが、それと共に人間可愛い一条から人間と自然の中に入り込んで守護されている。

人間のもつ価値や意味を十分に尊重され、人間が自らの努力（自力）で成人につとめ、神の教えに従う時、神はその努力を受けとめて、足らないところを補い、たすけてくださる（他力）。人間を一番大事にし、尊重してくださる神様が親神さまである。

元の神の思召を悟れる心を与えられた

親神さまは人間にだけ知恵の仕込みと文字を与えられた。その知恵と言語能力を持って人間は元の神・実の神の思召を探し求めた。啓示によって明かされた親神さまの思召を悟り、その思召に添う生き方が出来るようにと。そして、人生の目標、社会と歴史の目標を見定めることができるようにとの思召からである。

キリスト教の創世記では、知恵は食べてはならない禁断の木の実であった。

その後神学者は、人間は神から与えられた自然の光である理性を生まれながらにしてもっているという説をとなえたが。

親神さまは人間が与えられた知恵を十分に使うように教えられている。それを十分に使わず、「しやん（思案）」が足りないと、親神さまの思召を十分に悟り取ることが出来なくなるのである。教祖は「しやんたのむで」と仰せられている。思案が足りないと、心が十分に成人できず、陽気ぐらしの実現が遅れるからである。

９月支部ひのきしんデー

９月４日午前９時～11時30分

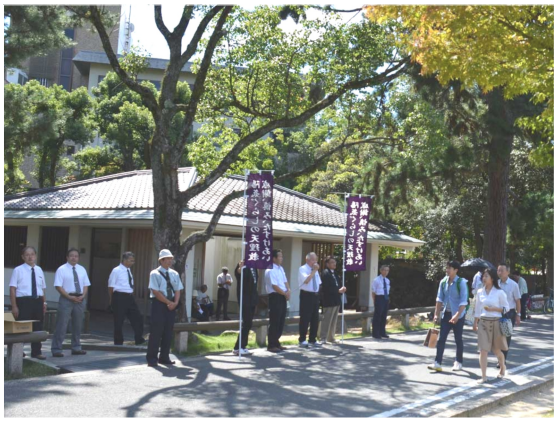
甲賀学園鹿深の家

草刈り・除草

全教一斉にをいがけデー

9月28・29・30日

9月はにをがけ強調月間です！



この旬に心を揃え勇んでつとめましょう！

支部・組での取り組み

江南支部は、統一活動として9月29日、30日：午前8時30分近南分教開集合
密集住宅地をリーフレット配布

甲南組は、9月28日午前10時甲南分教会より天保義民の碑まで神名流しを行い、碑の前で路傍講演を行う

信楽組は、28日は教会ごとににをいがけ活動を行う

甲賀組は、28日は組でにをいがけ活動を行う

一れつきょうだい推進研修会　啓発委員会主催

日時：10月2日午後1時～～

会場：滋賀教務支庁

内容：映画「破壊」上映　　全国水平社創立100周年記念として昨年制作され全国上映され、評価の高い映画です。ぜひご覧ください。

参加費：無料

教区・支部情報ネットにつながります。
支部だより、行事案内などがご覧いただけます。